

平成 23 年度第 1 回公立大学法人滋賀県立大学経営協議会議事録

日時・場所：平成 23 年 6 月 21 日（火）10：00～12：00 評議会室

出席者：曾我理事長、川口副理事長、大田理事、菊池理事、仁連理事、北村委員、吉川委員、高橋委員、南委員、押川委員

事務局：堀部事務局次長、垣立総務グループ統括、小島財務グループ統括、高田経営戦略グループ統括、杉野学生・就職支援グループ統括、藤野教務グループ統括、橋本図書情報グループ統括、久保田地域貢献研究推進グループ統括、松野副参事、茶谷主任主事

議事に先立ち、定款第 18 条第 2 項第 4 号に規定する経営協議会委員として 5 月 1 日付けで選任された押川委員に対して、曾我理事長から委嘱状が交付された。

【議 題】

(1) 平成 22 事業年度業務の実績に関する報告書（案）について

資料に基づき各担当理事から説明があり、原案どおり承認された。

(主な質疑・意見等)

- ・自己評価について、法人化 5 年目で全て「A」評価になったことは、評価できる。
- ・数値目標において、英語力 20%アップとは、どのような指標によって判断しているのか。
→受験を義務づけている TOEIC 試験の全学平均点を 20%向上させることを目標にしている。
- ・科研費について、30%を超える採択率は大変評価できるが、申請率が 70%であることについては、改善の余地があり全学的な取り組みに期待したい。
- ・教育課程の充実の取り組みで、FD 研修会の様子を DVD に記録し教材化したとあるが、活用状況はどうか。
→「授業の基本」(全 6 回) は、すでに他大学や学外研修会等でも使用されている。学生の肖像権に関わるものについては、内部利用に留めている。
- ・TOEIC 試験の受験率が、年次進行とともに低下しているのが気になりである。
→受験率が向上するように努力したい。

(2) 平成 22 年度決算について

資料に基づき小島財務グループ統括から説明があり、原案どおり承認された。

(主な質疑・意見等)

- ・目的積立金を取り崩している理由、具体的な用途は何か。目的積立金については、今次の中期計画期間の中で使い切る必要があるのではないか。
→取り崩しは、県の財政構造改革プログラムに対応し、特別研究費などに充当している。他に、新学科開設に伴う学生数増加による講義室の建設費として取り崩す予定である。今後、4 年間は県の財政構造改革プログラムの影響が出るので、第 2 期中期計画以降の取り扱いについて、繰越した上で教育研究の充実に使えるよう県と協議していく。

【報告事項】

(1) 平成 22 年度卒業・修了者の進路状況について

資料に基づき杉野学生・就職支援グループ統括から報告があった。

(2) 国際コミュニケーション学科および大学院工学研究科電子システム工学専攻博士前期課程の開設準備状況について

資料に基づき高田経営戦略グループ統括から報告があった。

(3) 大学運営に関する指標について

資料に基づき経営戦略グループ茶谷主任主事から報告があった。

(4) 公立大学法人滋賀県立大学理事長選考会議の経過について

資料に基づき川口副理事長から報告があった。

(主な質疑・意見等)

・国際コミュニケーション学科の特別選抜は、募集人員 10 名に対して、各高校 2 名まで出願できるとしているが、全体での志願倍率はどの程度を想定しているか。

→他学科の状況が 3~4 倍程度であるので、同程度を想定しているが、初年度はもう少し高倍率となる可能性も考えられる。